



Doshisha University Academic Repository

同志社大学学術リポジトリ

私の仕事この一年

著者	佐藤 悠, 西本 千夏
雑誌名	同志社大学図書館学年報
号	42
ページ	170-172
発行年	2017-03-31
権利	同志社大学図書館司書課程
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000015406

私の仕事 この一年

大阪市立中央図書館

佐藤 悠

こんにちは、大阪市立中央図書館で司書をしています佐藤悠と申します。2016年4月に大阪市職員（行政職）として入庁し、大阪市立中央図書館利用サービス担当（大阪担当）に配属されてから1年ほど経過しますが、この場を借りて、この1年間の仕事やそれを通じて感じたことなどを紹介しようと思います。

まずは、勤務先についてですが、大阪市立図書館は大阪市西区に中央館が、ほかの23区に地域館がそれぞれ配置されており、中央図書館の蔵書冊数は約210万冊で、地域図書館のそれを加えると約410万冊になり、市町村立図書館としては最大規模の図書館の一つになります。豊富な蔵書や充実した各種データベース等を提供し、そのほかさまざまなサービスを展開しており、「いつでも、どこでも、だれもが課題解決に必要な情報にアクセス可能な“知識創造型図書館”を基盤とし、さらなる発展と再構築をめざす。」という基本目標を掲げながら図書館が運営されています。

配属先は「利用サービス担当」といいますが、カウンターや電話対応、各種調査相談など「直接サービス」を行う部署です。中央図書館の閲覧室の構成ですが、地下1階は主に文学・ヤングアダルト等、1階は児童・外国語資料等、2階は人文社会・自然科学等、3階は郷土資料・調査研究関係の資料等となっており、私自身は主に3、2階のカウンターにて仕事をしています。

カウンター対応では、資料の検索、フロアの案内のような「クイックレファレンス」から、時間をかけて事実や文献を調査するレファレンスなど、幅広い質問、相談を受け付けています。また、書庫出納、相互貸借や郵送複写に関する業務などもあり、毎日さまざまな質問、相談に対応しています。一方、電話対応では、開館時間、所蔵状況、予約などの問い合わせが多いです。このほかには、大阪に関する内容に限ってメールにて調査を受け付けたり、大阪市の本庁職員からの調査にも対応したりします。

専門業務としては、大阪担当として郷土資料の管理やイベントの運営などの業務があります。郷土資料は資料種別ごとに担当があり、今年度は雑誌・逐次刊行物の担当として、雑誌の受け入れ、寄贈の依頼、製本作業の管理などを行いました。郷土資料の収集範囲は広く、大阪市が発行する公報や区ごとに発行される広報誌など、公的なものから民間企業が発行するフリーペーパーなどさまざまな資料を収集しています。寄贈に頼りながら収集することが多く、ある時期を過ぎてしまうと入手が困難になる資料もあるので、まめに発行状況の確認をしたり、寄贈の依頼をしなくてははいけません。この業務を通して、公共図書館がその地域資料を収集し、提供し、また保存することは重要な役割だと強く感じるようになりました。また、大阪の歴史や文化に関するイベントの運営の担当についてですが、今年度は市民向けの古文書講座や「史料でたどる「おおさか」講演会」というイベントの運営担当になりました。講師の先生との連絡調整、広報、当日の司会などさまざまな業務がありましたが、人気な行事の一つであったので、とてもやりがいを感じることができました。大阪担当の業務以外にも毎月発行される新刊紹介の原稿執筆や、利用者向けのOPACの利用方法の講習会の講師などの仕事がありました。

次に図書館に勤務して感じたことなどを書いていこうと思います。

勤務先が公共図書館ということで、働きはじめてまず、さまざまな利用者に対応することに驚きました。就職以前に日常的に利用していた図書館は、主に所属する大学図書館だったからです。大学図書館は原則その大学に所属する学生や教職員などいわば「特定多数」が利用する

ことを想定していますが、公共図書館は、その地域の在住、在勤の方が主な利用者になります。そのため、子育て中のお父さんお母さんや、その子ども、地元の小学生、中学生、またはサラリーマン、リタイアされた方などさまざまな利用者が来館し、その分、求められることも多様になります。配属されてから大学図書館と公共図書館のギャップに戸惑いながら仕事をしていたといえるかもしれません。

また、郷土資料を担当する部署に配属されたため、大阪に関する知識も求められました。カウンター対応時に利用者が「くにじまの場所なんだけど」と仰られましたが、「くにじまってどこ?」と思いながら、すぐに地図などで確認しながら対応しました。(くにじまは東淀川区の地名で漢字では「柴島」と書きます。) このように、常日ごろの相談、質問に大阪の知識が求められることが多く、レファレンスの回答の精度をあげるためにも、日々勉強しなくてはなりません。公共図書館で働くには、いかにその地域と向き合い、関心を持ち続けることが重要であると感じるようになりました。

以上のように、やりがいを感じながら仕事をできた一方、失敗することもありました。さまざまな場面で上司や先輩の司書に指導してもらいながら、仕事を覚えていくことができましたが、まだ一人前には程遠いので日々の仕事に真剣に臨んでいきたいです。

図書館の運営に関しては、館内の多くの部署が確実に機能することと互いに連携していくことが重要です。現時点では、ほかの部署の業務内容などの理解が浅く、このような点を理解していくことが今後の課題の一つと考えています。さらに行政職として市の方針などを理解しなくてはならず、行政サービスとしての「図書館サービス」という意識もしなくてはいけないなど、分からないことや課題が山積みです。今回私が紹介した内容は図書館の仕事のごく一部でしかありません。まだ実務経験や知識も浅く、申し訳ないことが多いですが、この拙い文章から図書館の仕事の一端を知っていただけたら幸いです。